

ジュニア科学クラブ 2008 実施報告

江越 航*

概要

当館では毎月一回、小学校5・6年生を対象にした「ジュニア科学クラブ」という行事を実施している。これは子供たちに科学への理解や興味を深めてもらうことを目的に、プラネタリウムで星空や宇宙に関する話題を解説したり、さまざまな科学実験を実施したりする会員制の行事である。本稿では2008年度に実施した内容について報告する。

1. はじめに

ジュニア科学クラブは当館において小学校5・6年生を対象に実施している事業である。プラネタリウム、実験教室を通して子供たちに科学への理解や興味を深めてもらうことを目的としている。近年、小学生向け科学教室の要望が非常に多く、2000年度より実施している。当館ではこの他、会員制の組織として友の会が存在するが、こちらは中学生以上を対象としており、会員制で小学生向けに定期的に行っている行事はジュニア科学クラブのみである。

クラブは8月を除く毎月第4土曜日に9時45分から2時間程度行った。内容は、前半がプラネタリウムでの星空解説、後半がさまざまな科学実験を行う実験教室もしくは展示場・サイエンスショーの見学である。

2. 申し込み状況

ジュニア科学クラブの定員は150名、年会費3,000円である。募集の1ヶ月ほど前からホームページおよび館内でちらしを配布して広報を行なった。また、科学館近辺にある大阪市立の小学校20校には直接訪れ、校長先生等にクラブの紹介をした。直接訪問した小学校からは64名の生徒が入会した。

受付開始は2007年度2月のクラブの日終了後の2008年2月23日(土)12時からとした。ただし混乱を避けるため、朝9:30から整理券を配布した。しかし、整理券を求めて開館前に行列が生じており、午前8:00の段階ですでに2名、8:40の段階で20名の方が並ん

でいた。整理券は開館時に並んでいた方153名分に配布したところでなくなった。整理券をもらっても入会手続きをしない方もいたため、2008年度の会員数は150名となった。

会員の内訳としては、大阪市内が最も多く109名、市内を除く大阪府下が31名、府外が10名であった。この割合については、近年、特に大きな変化は見られない。また、学年別では5年生96名、6年生54名(うち、2007年度からの継続者27名)となり、2008年度は5年生の割合が大きくなった。

3. 活動内容

プログラムの前半約45分は全員がプラネタリウムホールに集合し、学芸員が毎月交代でプラネタリウムを使用した投影により、その月にちなんだ星空や天文・宇宙に関する話題を解説した。後半は場所を移動して、実験教室、または展示場・サイエンスショーの見学を行った。実験教室については、科学館の普及セクションのサイエンスガイドのメンバー、または日本IBM社会貢献・ボランティアチームが担当した。

実験教室は1ヶ月ごとに5年生と6年生が交代で行い、実験教室がない月は、展示場・サイエンスショーの見学とした。また、昨年度は展示改装工事を行っていた関係上、4月は全員、旧展示場見学、7月は新展示場見学とした。

実験教室については部屋の容量および担当者の人員配置・準備の関係から、会員を半分に分けて1ヶ月ごとに交代で行うこととした。具体的な活動内容については、表1に示したとおりである。

*大阪市立科学館 学芸課 学芸員
E-mail: egoshi@sci-museum.jp

表 1 2008 年度ジュニア科学クラブの内容一覧

日時	参加者	内 容		対象	担当
4/26	132	プラネ	くずれる北斗七星	全員	渡部
		展示見学	展示場へ行こう！	全員	
5/24	123	プラネ	南の星を見に行こう	全員	嘉数
		実験教室	ゆかいなクラクション	6年生	日本 IBM
6/28	125	プラネ	昼間が一番長い日	全員	江越
		実験教室	ゆかいなクラクション	5年生	日本 IBM
7/25	93	プラネ	夏休みの天体かんさつ	全員	飯山
		展示見学	新展示場見学	全員	
9/27	92	プラネ	木星ってどんな星？	全員	石坂
		実験教室	紙の橋を作ってテストしてみましょう	6年生	日本 IBM
10/25	116	プラネ	月のはなし	全員	江越
		実験教室	紙の橋を作ってテストしてみましょう	5年生	日本 IBM
11/22	76	プラネ	不思議な星ミラを見つけよう	全員	渡部
		実験教室	まわして遊ぶ「アニメ」を作ろう	6年生	上野
12/27	84	プラネ	すばるを見よう	全員	飯山
		実験教室	まわして遊ぶ「アニメ」を作ろう	5年生	上野
1/24	84	プラネ	金星のはなし	全員	江越
		実験教室	油膜をとりのぞこう	6年生	日本 IBM
2/28	101	プラネ	天動説と地動説	全員	石坂
		実験教室	油膜をとりのぞこう	5年生	日本 IBM
3/28	92	プラネ	天体の動きを追いかける	全員	嘉数
		実験教室	まわして遊ぶ「いろいろごま」を作ろう	全員	田川



写真1 実験教室・まわして遊ぶ「アニメ」を作ろう



写真2 実験教室・油膜をとりのぞこう

写真1・2は実験教室の様子である。昨年度は初めて科学館の普及セクションにおいて、展示解説ボランティアであるサイエンスガイドも実験教室を担当した。リーダーの先生方が中心となり事前準備を行い、当日はサイエンスガイドが多数参加して進行の補助を行った。そのため実験のグループごとに人員を配置することが可能となり、実験の進行の際にきめ細やかな対応をとることができた。

IBM のグループが行なった実験は、IBM が社会貢献活動の一環として支援している「トライサイエンス」と呼ばれるWebサイトに掲載されているものから選択して実施している。「ゆかいなクラクション」「紙の橋を作ってテストしてみましょう」は以前も行った実験であるが、2008 年度は新しいテーマとして「油膜をとりのぞこう」という実験も行った。

4. 会員手帳

ジュニア科学クラブ会員には入会受付時に「会員手帳」、および当館発行の冊子「こよみハンドブック」を配布した。また毎月友の会の会報「うちゅう」を送付した。「うちゅう」は中央の2ページがジュニア科学クラブ会員対象のページとなっており、その月のプラネタリウムや実験教室の内容、スケジュール、持ち物等が掲載されている。

会員手帳はカレンダーになっており、クラブの日を含めて科学館に来た日には、会員手帳にスタンプを押している。2月までに10個以上スタンプが押してある会員は、3月の最終回のクラブの日に、優秀会員として表彰を行った。昨年度優秀会員として表彰したのは31名の会員であり、賞状と、副賞として科学館のオリジナルクリアーファイルを贈った。

4. 入会受付方法

新年度のジュニア科学クラブ会員受付の際には、開館前に行列ができるほど入会希望者が多くなってきた。このため、混乱を避けるための事前準備が重要となる。

受付にはあらかじめ整理券を用意し、申し込みに先立ち、当日朝 9:30 から配布した。配布に当たっては、一般の入場者とジュニア科学クラブ申し込み者の列を分けて、申込者の列は1階奥の多目的室へと誘導した。

整理券は裏側が申し込み用紙になっている。受付は12時からで、この間、2月の通常のジュニア科学クラブを実施し、申し込み希望者は申込用紙に記入して多目的室で待機してもらった。

受付手続きは地下一階研修室で行い、整理券の順番に10名ずつ程度、順次入会金の受け取りと、入会にあたっての説明会を実施した。

5. 出席状況と今後の課題

近年、ジュニア科学クラブの参加希望者が多く、定員150名では要望にこたえられない状況である。しかし実験教室を実施するスペース、人員配置を考えると、これ以上の定員増加も困難である。

しかし出席状況をみると、新年度にジュニア科学クラブが始まった当初は8割以上の会員が参加しているが、後半になると出席率が落ちてくる。なお今年度に関しては例年よりは出席状況がよく、最終回でも6割程度の参加があった。これは、今年度は特に5年生の割合が多かったことが主な原因と考えられる。

ジュニア科学クラブの内容は、前半はプラネタリウムとしているが、毎月プラネタリウムというのはだんだん新鮮味が薄れ、参加者の集中力も続かなくなってくるも

のと思われる。また、後半実験教室のない月は展示場、あるいはサイエンスショー見学としたが、実際にサイエンスショーを見学している会員はあまり多くない模様であった。

ところで昨年度の展示改装により、サイエンスショーコーナーのキャパシティが広がった。そこで、状況を改善するために、2009年度についてはプラネタリウムとサイエンスショーを交互に行う予定である。

これにより多くの会員に継続して通ってもらい、宇宙や科学に対する興味を喚起し、将来にわたって科学へ対する興味・関心を持ち続けるきっかけになることを引き続き目標としたい。

